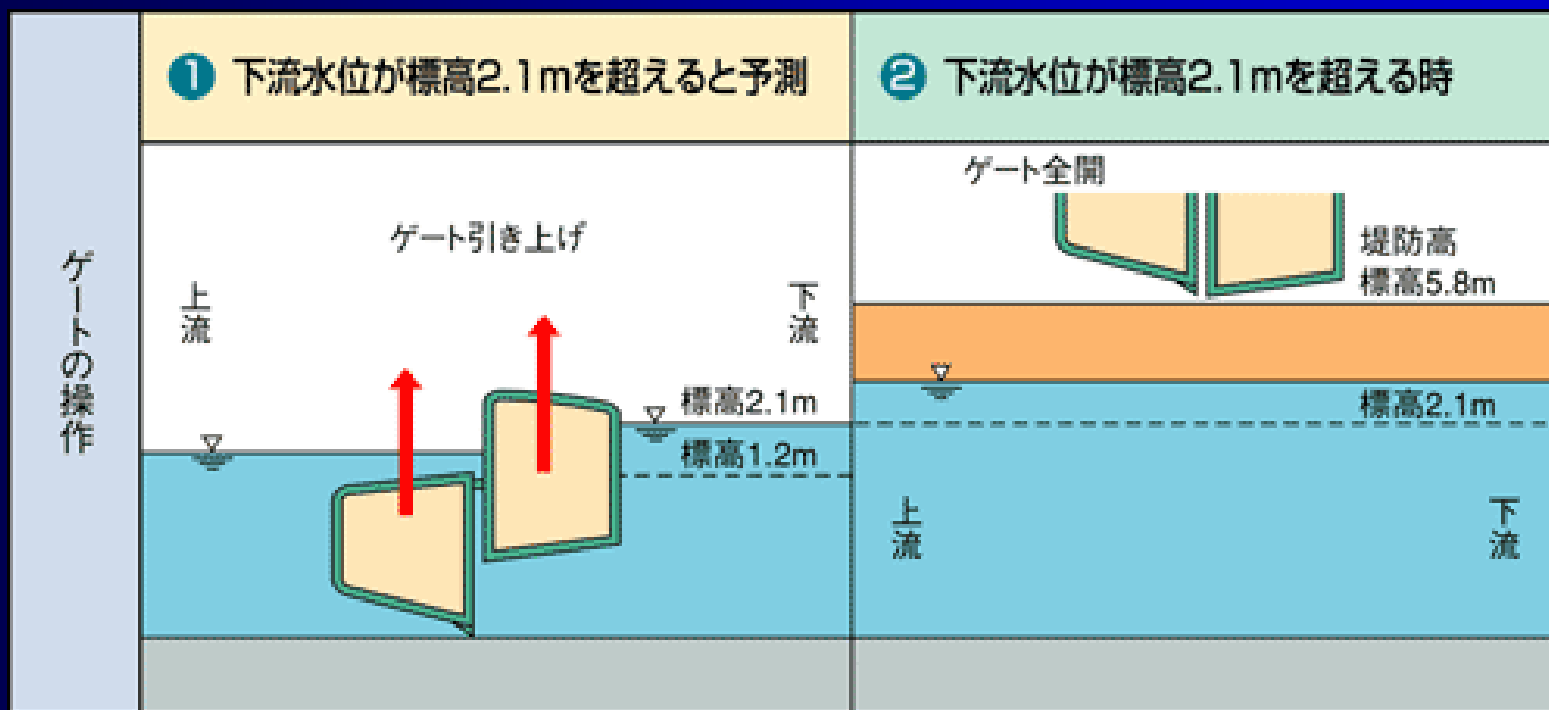


長良川河口堰における高潮時の操作について

長良川河口堰では、下流の水位が標高1.2mを超え、さらに標高2.1mを超えると予測される時にはゲートを全開する操作を行います。
なお、下流水位が標高1.2mを超えても、標高2.1mを超えないと予測される場合は、塩水の侵入を防止するためゲートを全閉する操作を行います。

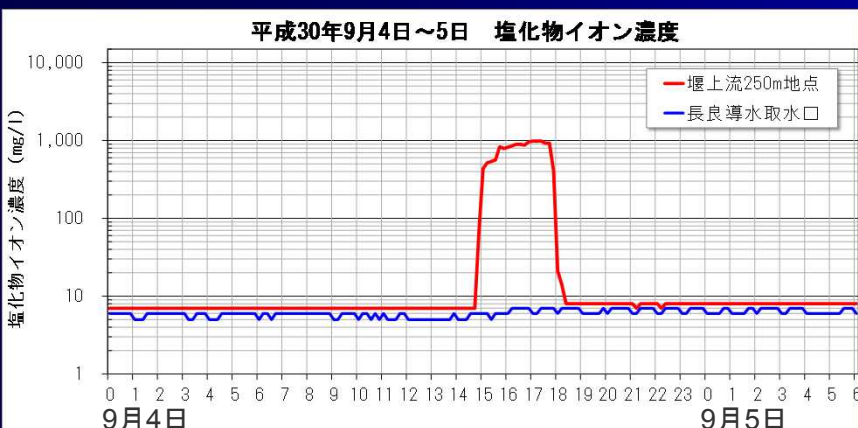
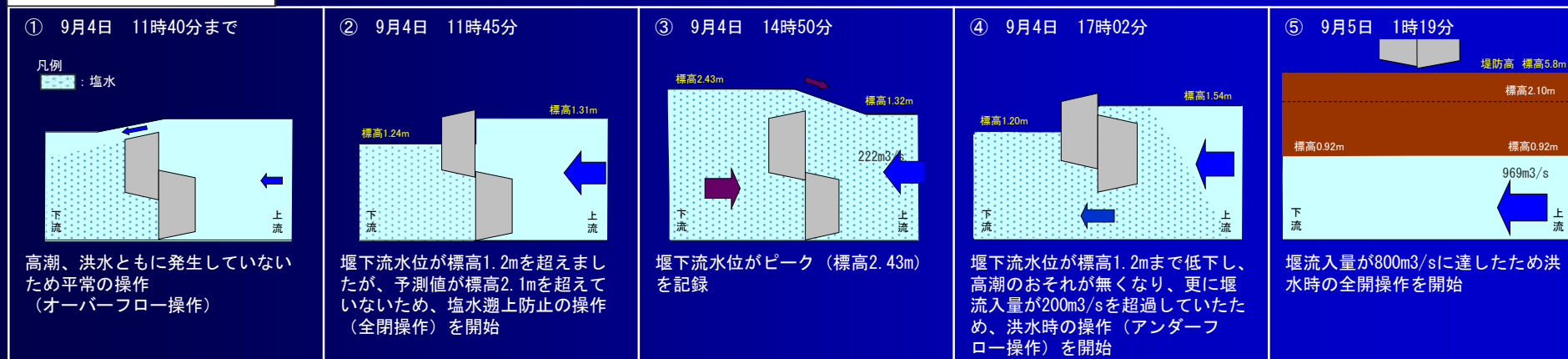


平成30年9月、東海地方に接近した台風21号及び台風24号において、平成7年7月の管理開始後、初めて、標高2.1mを超える高潮時の操作を行いました。

台風21号に伴う高潮への対応

- 9月4日11時40分に、堰下流水位が高潮操作準備の基準となる標高1.2mを超過しました。しかし、長良川河口堰管理所で行っている高潮予測では、標高2.1mを超える予測ではなかったことから、塩水の浸入を防止するため、全閉操作を行いました。
- その後、下流水位が予測値を上回り、14時24分に標高2.1mを超えましたが、この時点からゲート全開操作を開始した場合、「操作終了時点で下流水位が標高2.1mを下回っている可能性が高いこと」から、全閉操作を継続しました。
- 14時50分の水位ピーク時には、高潮による塩水がゲートを約20cm上回り、堰上流では最大約1,000mg/lの塩化物イオン濃度を記録しましたが、除塩操作により、約3時間で通常の数値（概ね10mg/l程度）に戻りました。また、堰上流の長良導水取水口においては塩化物イオン濃度は上昇しておらず、水道等の取水停止も発生しませんでした。

高潮時の操作（イメージ）



台風24号に伴う高潮への対応

- 9月30日17時50分に、堰下流水位が標高1.2mを超え、高潮予測において標高2.1mを超える予測となったことから、高潮によるゲート全開操作の準備を開始しました。
- その後、下流水位が標高2.1mを超えることが確実になったため、20時10分からゲート全開操作を開始し、20時50分にゲート全開操作を完了しました。
- 堰上流では最大約670mg/lの塩化物イオン濃度を記録しましたが、洪水により堰流入量が増加したことから塩水が下流に押し出され、約1時間で通常の数値（概ね10mg/l程度）に戻りました。また、堰上流の長良導水取水口においては塩化物イオン濃度は上昇しておらず、水道等の取水停止も発生しませんでした。

高潮時の操作（イメージ）

